北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

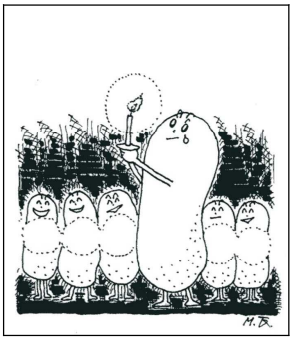
ジャガイモ

校長通信　№２６４

令和５年　６月２０日

「 感動の卵④ ～ふれあい合宿記・キャンドルサービス～」

校長　江　口　　満



【前号からの続き】「何か一つでいいから考えながら休もう。」と私も、Ｓ学年主任の夜の班会議の言葉を思い出しながら寝具に横たわり、何かを考えようとした瞬間、爆睡してしまったらしい。「これはいかん。」と、昨夜のＳ先生の宿題を考えようと部屋の外に出てみた。すると一年の先生方はすでに退所の準備を始めていた。先生方は、昨夜、生徒の就寝を確認した後、明日の打ち合わせをされ、その後も各部屋の見回りをしていたのだからほとんど寝ていないはずだ。

玄関を出て、集いの広場まで歩いた。すると初夏の風が私のほほをそっと撫でてくれた。夏の濃厚で汗ばむような森の香りも好きだが、身体の中を通り抜けるような初夏の風も好きだ。しばらくその風に身を任せていると、カメラのフレームを通して切り取った生徒の皆さんの姿がよみがえってきた。スマホの写真も便利だが、一眼レフの感触が自分には合う。そして写真という媒体は一瞬のシーンを切り取り、その一瞬を永遠にする。空を見上げると、その一瞬一瞬のふれあい合宿のシーンが初夏の風の中に舞い上がった。私は何かしら、今ここに存在するすべてのものに対して感謝したくなった。

「このことか。Ｓ学年主任が言っていたことは…。」ふれあい合宿は非日常だからそう感じさせてくれたのか。いや実は日常の中にこそ、初夏の風のように新鮮な日常が連続しているはずだ。あの朝の自然すべてが、そう私に教えてくれたような気がした。朝の集いが開始される時間にはまだ早い。しかし、遠くからＳ学年主任がこちらへ歩いてくる姿が見えた。

「心を静めよキャンドルの集い」
１年３組　Ｅさん

「パチ」先ほどまで明るかった体育館が一気に暗くなり、皆の声も静まり、司会の声が体育館に響きわたった。火の長と火の女神、火の守たちが入場し、ドーン、ドーンという杖の音が鳴り響く。火の長が火の守たちにこう言う。「規律、協力、友愛、奉仕のの火をかかげよ。」と。火の守たちは、燭台に規律、協力、友愛、奉仕の火を灯した。「火の守たちよ。皆に火を分け与えて一つの大きな火にせよ。」火の長がそう言うと、火の守たちは私たちに火を分け与えた。火が全員にいきわたると、火の長は言った。「目をつぶり何か願いごとを、ふれあい合宿であったことを考えてみよ。」そこで私は、いっしょに過ごした友達のことを考えた。私には同じ小学校の友達が多く、他の小学校の友達は数人しかいなかった。だがこのふれあい合宿があったからこそ、他の小学校の友達との友情を深めることができたと思う。終わると片付けが始まった。

皆はキャンドルの集いをきっかけに、何か考えただろうか。何かを大切にしようと考えただろうか。何を考えたかは分からないが、これをきっかけに友情が深まったのは確かだ。これからも規律、協力、友愛、奉仕の心を大切に、日々過ごしていきたい。

【上】ふれあい合宿二日目の夜、キャンドルの集いの第一部「レクレーション」の様子。「ワーワーゲーム」で一年生の皆さんとと楽しんだ。このゲームは、大学4年時、「ジャガイモの精神」が生まれた広島県の山奥での合宿「芋塾」で、私自身、学んだゲームだ。

「がんばった分の笑顔」　１年３組　Ｋさん

活動係として私は反省点があります。ビンゴラリーやウォークラリーなどの班で活動するときのことです。ビンゴラリーではうまく班のみんなをまとめられず、私はずっと「がんばらないと」と自分にいい聞かせていました。ビンゴラリーの反省点を次に活かしていこうと１６キロも歩くウォークラリーに挑みました。前半では、一番最初に出たのにどんどん他の班に抜かされ、みんなをまとめきれませんでした。ビンゴラリーの反省点をいかせず、ちょっとくやしくて涙が出ました。でも後半では、みんなをまとめることができたけど、それは先生のおかげです。先生が班のみんなを注意してくれたからです。私はちょっとくやしいです。私はたくさん注意したのに、先生がちょっと注意しただけでみんなはまとまったからです。

全部の活動が終わって、ビンゴラリーとウォークラリーの表彰式がありました。最初はビンゴラリーの表彰で、自分の班はないと思っていたら、「３組１班」と言われてめっちゃ喜んで、先生の方を見たら先生もめっちゃ笑顔でした。ウォークラリーの表彰では、本当にないだろうと思っていたら、「３組１班則松のウサインボルト班!」と言われて、先生もさっきよりめっちゃ喜んでいて、私もいつの間にかめっちゃ笑顔になっていたと思います。私は、心の中で「がんばったらがんばった分笑顔になる」と言いました。

「みんなの前で」　１年４組　Ｓさん

出発式、入所式、夕べの集い、朝の集いなど、全部で８つの式があった。そして僕は、入所式と最終日の朝の集いの司会をすることに決まった。司会をするときは、気合いを入れてがんばろうと思った。だが出発式が終ったらあっという間に時間が過ぎ、入所式の直前になった。みんなの前に立つと、少し緊張をしてきた。そうして司会をしてみると、自分の思った通りに司会ができないまま入所式が終ってしまった。

司会をしてみて反省すべき点があった。その反省点を朝の集いにいかすために、夜寝る前に考えた。その答えは大きくまとめると、的確な指示とみんなでの声かけだった。この二つのことを朝の集いでいかそうと思った。ぼくが反省していたポイントを他の司会者たちができているかを見ていくと、ほとんどの司会の人たちができたいた。だから自分のお手本として見ていった。

とうとう自分の番の最終日の朝の集いが始まろうとしていた。みんなの前に立ち、的確な指示を出して、みんなで声かけをすることができました。このことから僕は、「失敗は成功のもと」という言葉は、まさにこのことだなと思った。（中略）学年スローガンＫＭＭを大切にし、学年の代表としてみんなに声かけをして、自分から行動していきたいと思った。

【右】表彰式の様子
【左】二日目夜の様子

【上】ふれあい合宿二日目の夜、キャンドルの集いで「感動の卵」が生まれた。中学校生活のスタートラインである「入学式」では、新しい生活、新しい友との出会いなど様々な不安があった。しかしＯＬビンゴラリーでは協力する心、試胆会では助け合いの心、ウォークラリーでは励まし合う絆が生まれた。式や集いではメリハリを学び、学年スローガンであるＫＭＫを達成した。今は一ヶ月前の不安はない。ふれあい合宿は、卒業に向けた学年の集団作りのスタートラインになったのだ。
【右】退所式では一年生の校歌の歌声が響いた。「校歌百点満点！」と言える日が待ちどおしい。